

令和元年度第2回行政評価委員会（暮らし部会）会議録

1 開催日時

令和元年7月23日（火） 午前10時～午前11時55分

2 開催場所

生涯学園都市会館 3階第3学習室

3 出席者

(1) 委員 4名

鈴木健委員（部会長）、久保田廣美委員、福盛田弘委員、曾我紀子委員

（欠席：高橋徳好委員）

(2) 説明者（施策主管課及び関係課） 1名

道路課：中野敬課長補佐

(3) 事務局（施策及び事務事業担当課） 2名

秘書政策課：赤坂秀樹課長補佐

財政課：松田隆課長補佐兼経営財務係長

4 議題及び報告事項

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「道路環境の充実」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

久保田廣美委員：「5 施策を構成する事務事業の検証」に、「地権者との交渉に時間を要したことにより…」とあるが、用地交渉担当職員は現状で足りているのか。土木の職員とも協力しながらやっているのか、用地担当職員だけがやっているのか。

中野敬課長補佐：生活道路だけでも60件の事業がある。毎年、全路線の用地交渉をしているということではないものの、昨年度までの人員体制では大変であった。今年度は、山の神諏訪線の新規事業があった。この路線は都市計画道路として整備するものであるが、2年で用地交渉をしなければならないことから、人員を1名増員し、担当課長補佐を含めて7名体制でやっている。用地交渉は職員が行っているが、地権者が多いため、金額等の地権者への説明をコンサルティング業者に委託し、業務の効率化を進めている。

久保田廣美委員：用地交渉は大変だと思う。

中野敬課長補佐：都市計画道路であれば、最終的に収用する方法もあるが、収用はあくまで最終手段。まずは地道な用地交渉から始まるので、市民の皆さんにはご理解・ご協力をお願いしたい。

曾我紀子委員：高齢者の自転車はかなり怖い。歩道を走ってくる上、ルールが守られていない。

中野敬課長補佐：本来、ある程度の幅員がないと歩道の自転車通行はできない。自転車通行帯のラインを引いている箇所もある。一方で、モラルの問題もあり、道路課の対応のみでカバーするのは難しい。場所を見ながら今後検討していかなければならない。

福盛田弘委員：「4 施策を構成する事務事業一覧」の橋梁整備事業について、予定通り行えなかったというのはどういう意味か。

中野敬課長補佐：まず、事業のスタートが遅れたということがある。橋梁は完成時のサイズが決まっており、目標を超えるということはないが、おおむね近い数字だったので B 評価とした。

福盛田弘委員：工期が長くなるほど、予算もかかってくると思う。工事の長期化によって無駄な経費が発生しないかどうか意識してほしい。また、「1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組」に記載のある、除雪にかかる路面状況を確認する WEB カメラはどこに設置しているか。

中野敬課長補佐：全部で6～7か所に設置している。峠道等、融雪剤の散布や降雪状況の確認等に利用している。パトロールには出るが、そのほかにも峠道等にカメラを設置して確認するようにしている。

福盛田弘委員：朝早く除雪業者が来ない場所もあり、雪が固まった後に除雪車が来ることもあるので、雪が固まる前に除雪車が来るよう、委託先への指導と業務実施の管理をお願いしたい。

中野敬課長補佐：指摘の通り、除雪車の来る時間が若干遅いことがあるというケースや、出動したりしなかったりというケースがあることは認識しており、こうした点を含めた効率化は課題である。

鈴木健委員：施策貢献度と成果については、これは事務事業評価シートの事後評価と同様の内容が記載されていると理解している。生活道路維持事業では事務事業評価シートにおける成果指標の達成度が、おおむね目標値通りとなっており、B 評価になると思うが、施策評価シートでは C になっているがなぜか。

中野敬課長補佐：施工する延長等は目標通りであったが、施工に瑕疵（道路の穴で自動車のタイヤがパンク、側溝がめくれ上がって車両破損、バイクのスリップ事故により補償金や保険金の支払いがあった事案）があり、この点に重きをおいて C としたもの。

赤坂秀樹課長補佐：この項目は、事務事業評価シートの内容を転記する項目である。ここは C と記載されているが、事務事業評価シートの記載の B 評価が正しい。

鈴木健委員：現状の課題として、財源の確保が必要であるとしているが、具体的な財源確保対策はあるのか。

中野敬課長補佐：4号線関連では要望活動を行っている。それ以外にも事業の要望活動は行っている。国の交付金事業を活用している事業だが、長寿命化計画しっかりした計画や修繕数が多いため、要望を行っていくことしかない。架け替えとなると予算が何十倍にもなるので、過度な修繕にならないよう、長持ちする工法の検討や、効率的な施工方法も考え、全体額を少しでも下げるように設計をしている。

鈴木健委員：生活道路維持事業の事務事業評価シートの活動指標「当該年度の補修件数」について、平成29年度、30年度ともに計画値を上回っているが、これは実際に工事を行っていくと補修箇所が増えていくことなのか、住民からの要望が多く、喫緊の対応が必要な案件が出てきて件数が増えているものなのか。

中野敬課長補佐：実績値は発注した件数であり、455件は実際に修繕した箇所の件数。予算に対し、小さい瑕疵の修繕がたくさんあった。大きな修繕があれば件数は少なくなるが、小さな修繕が増えると件数は増える。

鈴木健委員：計画に対して実績が多いということは、良いという評価になるのか。

中野敬課長補佐：パトロールや通報に対応し、修繕していったことだと理解している。

鈴木健委員：そういう意味では、実際に必要な補修をこれだけ行ったということが評価できるということか。

中野敬課長補佐：道路の瑕疵や修繕はゼロが理想だが、現実的ではないので、例年の250件という数字を目標にはしている。一方で、壊れた道路があることも事実なので、それに対応していったということ。

久保田廣美委員：「5 施策を構成する事務事業の検証」の、成果の向上を図る事業について、天候不順や大雨による災害対応があったために目標値を下回ったとしているが、災害対応による予算的制約なのか、人的・時間的制約なのか、全体を見てそうせざるを得なかったということもあると思う。その上で、対策の内容が早期発注とあるが、災害予算が付いたうえで対応するということなのか、伺いたい。

中野敬課長補佐：各種事業予算と災害対応の予算とは別予算。ただし、道路維持については国の基準の災害にならなければ、道路維持事業の予算で修繕しなければならない。それ以外であれば別予算になるため、別事業からの流用もないが、生活道路維持事業の中では、国の基準の災害でなくとも道路が壊れることはあるので、そういう点では予算が不足し、補正も必要となった。

一番の要因は人的なものであり、災害であれば緊急対応なので、そちらに人員と時間を割かざるを得ないということはある。こうしたことから、早期発注によって事業を進めることで、災害が起こっても対応ができると考えている。

鈴木健委員：「3 成果指標の達成状況」でBとなった理由を、改良済みとならなかったケースが多くあったと分析をしているので、改良済みとならなかった理由は、災害によって事業の進行が遅れたということが1つあるかと思う。あるいは何らかの事情で、発注した工事が終わらない案件が多々出ているということもあり、それを解決するには、発注時期を前にしておくべきだった、という検証をしたという理解でよいか。

中野敬課長補佐：はい。

鈴木健委員：改良済みにならなかった要因は自然災害やそうした件数が多くあったという理由であった、ということか。

中野敬課長補佐：事業を進める上で、要因となったのは用地交渉における交渉の進捗状況や自然要因のほか、財源の問題もあり、目標値は立てているものの、財源の振り分けができないなど、要因は複合的であり、ある程度まとめて書かせていただいた。

福盛田弘委員：事故によってフェンスなどが壊れたまま放置されている場所がある。朝日大

橋のフェンスが壊れているが、事故で壊れたものの修繕はどこで担当しているのか。

中野敬課長補佐：事故ではない破損であれば、生活道路維持事業で修繕するが、事故による場合は、事故を起こした人がすべて修繕しなければならない。指示書を出し、保険会社が業者を手配して修繕するのが一般的である。花巻土木センターに問い合わせをしてみる。

鈴木健委員：成果指標の達成度について、事務事業評価シートで生活道路維持事業の繰越分について30年度の実績を見ると、計画よりも実績が少ないものもあるが、成果指標を見ると、今年度は目標値を上回る成果が出ている。しかし、施策評価シートでは達成できなかったとされており、つながらないと感じる。全体計画の中で達成していないということか。

中野敬課長補佐：30年度だけを見ると目標に対して実績がほぼ上回っている。ただ、この計画については予算要求の段階で年度別のスケジュールがあり、その内容を事務事業の活動指標としている。施策評価シートでは、これまでの工事における舗装率は全延長3,300kmに対する指数であり、目標値はこれまでの工事における改良の伸び率をもとに決定しているので、この年度における計画通りに進んだことをもって、実績がプラスになるかというのは違うため、おおむね目標通りという評価とした。

福盛田弘委員：除雪車の出動について基準はあるのか。

中野敬課長補佐：判断基準があり、業者でパトロールをして出すようにする。市でもパトロールをしており、必要に応じて出動指示や出動中止の支持を行っている。こうしたところも含めて効率化を図りたいと考えている。

(2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

●「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか

久保田廣美委員：これ以上具体的な記載にはならない。

福盛田弘委員：記載の通りと思う。

鈴木健委員：機能しているという案でまとめることとする。

●「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

久保田廣美委員：災害対応があったから目標値を下回った、というだけでは、シートを見た人がどう判断するかわかりにくいと感じた。人的な理由か、予算的な理由かを聞いたのはそういうことだが、実際には災害対応が可能だとしても、建築確認、設計があり、その仕事をする技師は非常時には災害対応に回らなければならない。表現の仕方だと思う。

鈴木健委員：自分には、道路の改良がどのようなプロセスで進むかという知識はなく、評価しにくいところもある。疑問として、施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか、は「4 施策を構成する事務事業一覧」の内容をもとに書かれているが、事務事業に関していうと課題があると考えられるのは1番目の事業（貢献度Cのため）。そうすると、本項の内容は施策を構成する事務事業のうち、評価が

低かった事業を取り上げて分析し、どのような対策を講じるべきかが書かれると思う。生活道路維持事業の分析では、自然災害対応があり、当初の計画通りに実行できなかったと書かれている。しかし、事務事業評価シートを見ると、成果指標をそんなに下回っているわけではなく、概ね計画通りに実行されている。また、新設、改良、整備は目標以上に実績が出ており、施策評価シートの本項に記載のある、「計画通りに終わらなかった事業が多い」という分析と合致せず、どう解釈すればよいのか疑問である。5年や10年といった全体の計画期間で見ると、こうした分析になるということなのか。

久保田廣美委員：説明の中では、瑕疵についての言及があり、瑕疵に至らないように管理に努めるという内容があり、瑕疵の減少に努めるという記載があれば、理解できる。

鈴木健委員：瑕疵の事情は、今日の説明を聞いて分かった。「施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか」の分析内容が、「4 施策を構成する事務事業」の実施結果を踏まえた内容になっていないと感じる。

赤坂課長補佐：事務局でシートへの記載を想定している内容ではなく、書きにくい内容ではある。本項目は、新規事業を検討するというのも1つだが、今までのやり方を少し変えるとどうなるか、小さいことでも改善の取組を記載するというものである。

鈴木健委員：瑕疵があったということが、評価を下げるととらえているということか。

赤坂課長補佐：道路課は道路管理者なので、道路に瑕疵がなければ維持管理をしているということが言えるが、補償金を支払うようなことがあれば、道路管理者責任となるので、担当者も気にしている部分ではあると思う。

鈴木健委員：それをそのまま書けないため、そのような内容になっているということか。

福盛田弘委員：瑕疵についての内容も記載してもよいと思う。

事務局：検証としては、説明を聞けば評価をしているのはわかるが、シートを見ただけでは分からず、表現が足りないという点を指摘するという点でも良いと思う。

鈴木健委員：見る人は「4 施策を構成する事務事業一覧」の成果を見た上で、その検証結果として、あまり評価の良くないものについて、成果の向上を図るべき対象事業となるものと考えられると思う。B評価の記載誤りということではあるが、生活道路維持事業がC評価だとして、分析からは補修件数や延長、改良率が目標値を下回っており、成果向上のためには早期発注に努める必要があるとしているが、事務事業評価シートの内容と整合性が取れていないため、分析内容としては合致しないと思うが、事業期間である5年や10年といったスパンでとらえた際に、そういう傾向があるということなのか。

赤坂課長補佐：本項目に記載する内容に対し、「4 施策を構成する事務事業一覧」にもつながる内容記載が必要だということだと思うが、分析はされているが、5番に記載されている内容が、「4 施策を構成する事務事業一覧」の分析段階で記載おらず、ロジックとしてつながっていないように見える。説明を聞けば分かるが、シート内では課題が表現されていないため、「4 施策を構成する事務事業一覧」と本項目がつながるように記載が必要といった指摘になると思う。

鈴木健委員：「4 施策を構成する事務事業一覧」の事務事業の評価と本項目の記載内容

に相関性がない、ということか。

赤坂課長補佐：分析は行われているが、本項目の記載内容につながる内容が「4 施策を構成する事務事業一覧」に記載されていない。

福盛田弘委員：瑕疵の問題がC評価にしている大きな理由なので、記載は必要と思う。

赤坂課長補佐：すべての内容を施策評価シートに記載できるわけではないので、「4 施策を構成する事務事業一覧」と本項目の内容がつながるように工夫して内容を記載してもらい、という点が指摘内容になると思う。

鈴木健委員：表現に工夫が必要という形でまとめる。文面については検討する。

●「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか

久保田廣美委員：「事業が進行中であるため」、記載だけでは内容が分からない。例えば工事に着手しているが、完成にならないであるとか、用地交渉がまとまらないため、工事に着手できない、といった具体的な内容で記載すれば良い。

鈴木健委員：指標としては改良率、舗装率と整備延長が成果指標になっている。改良率とはどうなったら改良されたということになるのか。

赤坂課長補佐：路線において改良工事が完了すると、延長が進むという考え方である。説明であったとおり、3,300kmの工事では、0.1%延長を伸ばすために3.3kmを1年で工事完了する必要がある。このため、単年度で数字を上げることは難しく、複数年かけて少しずつ増えていく指標であり、マイナスにもならない指標である。事業の良し悪しを測る指標としては適さないというところもあるかと思う。

福盛田弘委員：測れることでもなく、延々と続いていく事業だと思うので、表現としてやむを得ないところもある。

久保田廣美委員：特定の路線が、という表現があればわかるが、すべてが「進行中」という記載では分からない。

赤坂課長補佐：本項はその評価になった理由を書く欄であり、計画通りにやればA評価になるが、計画通りにできなかった場合について、できなかった理由を書くという欄である。

久保田廣美委員：できなかった部分について、理由を記載するということが必要。

鈴木健委員：「事業が進行中」の内容について、計画に対してどの程度まで進んだが、完了しなかったところについては、背景や理由を具体的に記載するという内容でまとめる。

●「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

鈴木健委員：内容的には、「現状と課題」と「◎前年度の評価の振り返り」要約したものだが、道路行政の性質上、こうした記載にならざるを得ないと思う。

久保田廣美委員：1行目の「…増高し、…」は「…増高するとともに、…」としてつなげないと何の経費なのか分かりにくい。また、下から2行目の「…企業立地は活発化していることから…」は「…企業立地は活発化しており…」とするべきではないか。

鈴木健委員：点検経費、点検に伴う修繕経費が増高し、なのか、増高するとともに、なのか、さらに、なのか。

赤坂課長補佐：点検経費・修繕経費といった記載でもよい。ご意見のとおり、「…増高するとともに…」とすると、点検・修繕以外にも経費が発生することが分かる。

鈴木健委員：修繕の検討と財源確保を図る、というのが結論。この結論に至る前の記述を含め、もう少し分かりやすい表現で記載をしてもらうという内容でまとめ、具体的な修正箇所については事務局に協力をいただいて列挙するというようにする。

●「シート記載内容全般について」

久保田廣美委員：具体的な数字を入れて表現するとわかりやすくなる。

福盛田弘委員：瑕疵の数で判定されているとすれば、瑕疵を原因とした事故の件数などがあれば良いと思うが、どこにも記載がない。そうした点もわかりやすく記載してほしい。毎年瑕疵状態はあると思うので、記載しておくとうい。

鈴木健委員：C判定の箇所については、記載要領のルールから外れた記載内容である。瑕疵の内容については事務事業評価シートの中にも記載がされていないので、施策評価シートに記載するのは難しいと思う。

鈴木健委員：今日の発言内容をまとめて検証シートを作成し、最終的に内容を皆さんに確認いただいて整理することとしたい。